

INTERNATIONAL JUDO FEDERATION

GUIDANCE OF JUDO GI CONTROL DURING IJF COMPETITIONS

Document in English, French

15/06/2011 INTERNATIONAL JUDO FEDERATION

国際柔道連盟

IJF大会における柔道衣コントロール・ガイダンス

2011年パリ世界選手権大会より適用

(英語、フランス語)

2011年6月15日付

2011年6月15日現在のIJF柔道衣サプライヤー:

マスター IJF サプライヤー
Green Hill

第2 カテゴリー・サプライヤー
SFJAM Noris
DANRHO Sport Rhode GmbH

第3 カテゴリー・サプライヤー
Mizuno
Adidas Double D
Hayakawa (Kusakura)
Budo Sport (HIKU)
Essimo
Matsuru
Fighting Film

(各社の正式なロゴマークは、英語原文参照)

柔道衣コントロールは、IJF教育コーチング委員会の責任の下に実施される。

リザーブ柔道衣について:

IJFによって開催される大会において、オーガナイザーは白と青の異なるサイズの柔道衣を提供しなければならない。2011年パリ世界選手権大会からは、異なるサイズの帯も提供しなければならない。これらの柔道衣は、“call room”（ウォームアップエリアとスタンドバイエリアの間）に用意され、着替えが必要な際には即座に対応できるようにする。必要とされる着替えを行うための個室がコントロールゾーンに設置されなければならない。

リザーブ柔道衣は以下の場合にのみ使用される：

- 試合中に柔道衣が破れた場合
- 血がついている、もしくは何らかの染みがついている場合
- サイズが合っていない（正しくない）場合
- ゼッケンが正しくない、もしくはゼッケンがついていない場合
- 広告が適切でない場合
- エンブレムが適切でない場合
- 公認サプライヤーのブランドでない場合
- 上衣と下穿のブランドが同じでない場合
- 色が適切でない場合
- 着古された（擦り切れたぼろぼろの）柔道衣の場合

リザーブ柔道衣は、試合のためにオーガナイザーによって提供される。選手は、自身のアクレディテーションカード、もしくはIJF規定に沿っていない柔道衣全部、もしくはその一部を、リザーブ柔道衣、または帯と引き替えにオーガナイザーに預けていくこと。リザーブ柔道衣は、試合終了後ただちに返却されなければならない。

各選手は、試合前に必ず柔道衣コントロールを通らなければならない。この目的に特化されたゾーンが設けられる。

もしも選手が本ルールに従うことを拒否する場合、当該選手は失格となる。

リザーブ柔道衣は選手へのサービスとして提供される。従って、（着替えが必要な）ある選手のために適切なサイズの柔道衣がない等の問題があっても、オーガナイザーがその責任を問われることはない。

柔道衣コントロールの際の選手の服装：

選手は、畳に上がるときと同じ服装（柔道衣）で、柔道衣コントロールに現れなければならない。

コントロールの手順:

- 1/ 柔道衣は、湿っているものは不可、またいかなる染みもついていないこと。
- 2/ 柔道衣製造業者のブランドは、柔道衣の上衣と下穿とで同じであり、上衣と下穿の色もまた同じでなければならない。
- 3/ アクレディテーションカードの名前とゼッケンの名前が一致していなければならない。
- 4/ 上衣、下穿、帯にあるIJF Approved (IJF公認) のラベルが、ブラックライトで確認される。
- 5/ IJF公式サプライヤーとして承認されている柔道衣製造業者のロゴマークは、上衣、下穿、帯につけなければならない。柔道衣製造業者のブランドは、上衣と下穿とで統一されていなければならない。
- 6/ 全体的にしっかり縫い付けられた選手の名前入り (アクレディテーションカードと合致している) の適切なゼッケンであることを確認。また、その大会専用の広告ゼッケンをつけていること (大会のプロトコールにより、白と青の柔道衣で広告が異なる場合がある。)
- 7/ 国家のエンブレム (上衣の左胸辺り)
- 8/ ルールに沿っている広告
- 9/ 現行の規定に沿った上衣、下穿、帯のサイズであることがコントロールされる。
(下穿: くるぶしが見える長さで、下穿の長さを確認することが容易であること)
- 10/ 防具 (膝当て、肘当て、すね当て等): 金属製の部品やいかなる硬い部品・金具も認めない。サイズのコントロールは防具をつけたまま実施される。
- 11/ 長い髪は結ばれていなければならない。

擦り切れている (ぼろぼろの柔道衣)、もしくは血痕がついている:

- 選手の柔道衣は、いかなる場合も擦り切れている兆候があってはならない (特に襟全体 the collar and the lapel)。その柔道衣の状態が満足のいくものではないと判断された場合、その選手はリザーブ柔道衣を着用しなければならない。
- 柔道衣に血痕がついている場合、その選手はリザーブ柔道衣を着用しなければならない。

マーキングの素材 (ロゴ、エンブレム、広告、等):

マーキングは、よい柔道が実践されることを妨げるような素材であってはならない。

*もしもその選手が色のついた帯をつけている場合は (茶帯、青帯、もしくは緑帯)、これらの帯も柔らかい素材で作られていなければならない。IJF ロゴラベルがついていないことは例外として認める。柔道衣や帯の一部を隠すようなもの (ステッカー、もしくは縫い付けられているもの) は認めない。

ラベル (図1 参照) :

(IJFロゴラベルは、) IJFの現行ルールに沿っているという証明である。
これは偽造できないオプティカル (光学) ラベルで、サイズは20cm²、これによりIJFの現行ルールに沿っていることを証明する。

ロゴラベルは以下の位置に固定する:

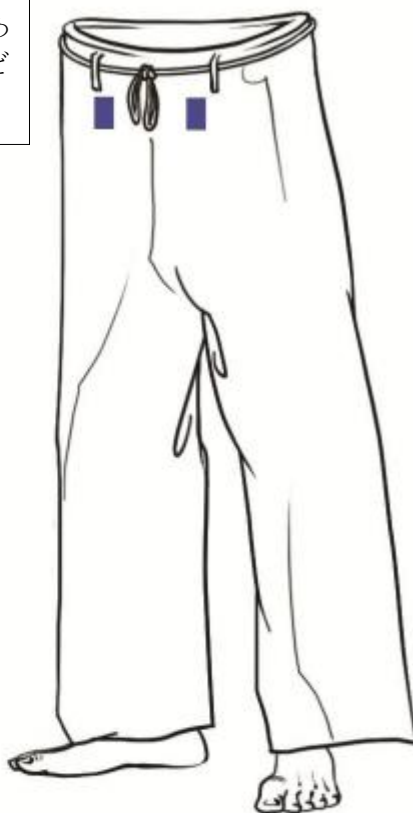
- 上衣の下部左前身ごろの (上衣の前を重ねたとき右前身ごろが下になる)、補強されている箇所に近いところ、もしくは補強されている箇所。
- 下穿の上部前面、中心に近い箇所。
- 帯の両端のうち、いずれか一方。*

図1

上衣:
IJF ロゴは、指定の位置に1つだけつける



下穿:
2つの選択肢があり、IJF ロゴは、どちらか一方に1つ



帯:
2つの選択肢があり、IJF ロゴは、どちらか一方に1つ。



製造業者ロゴの位置 (図2参照) :

柔道衣の上衣、下穿、帯のそれぞれに1か所のみ製造業者ロゴをつけることができる。
このロゴは以下の位置 (最大20 cm²のエリア) に固定する :

-上衣の外側から見える位置 :

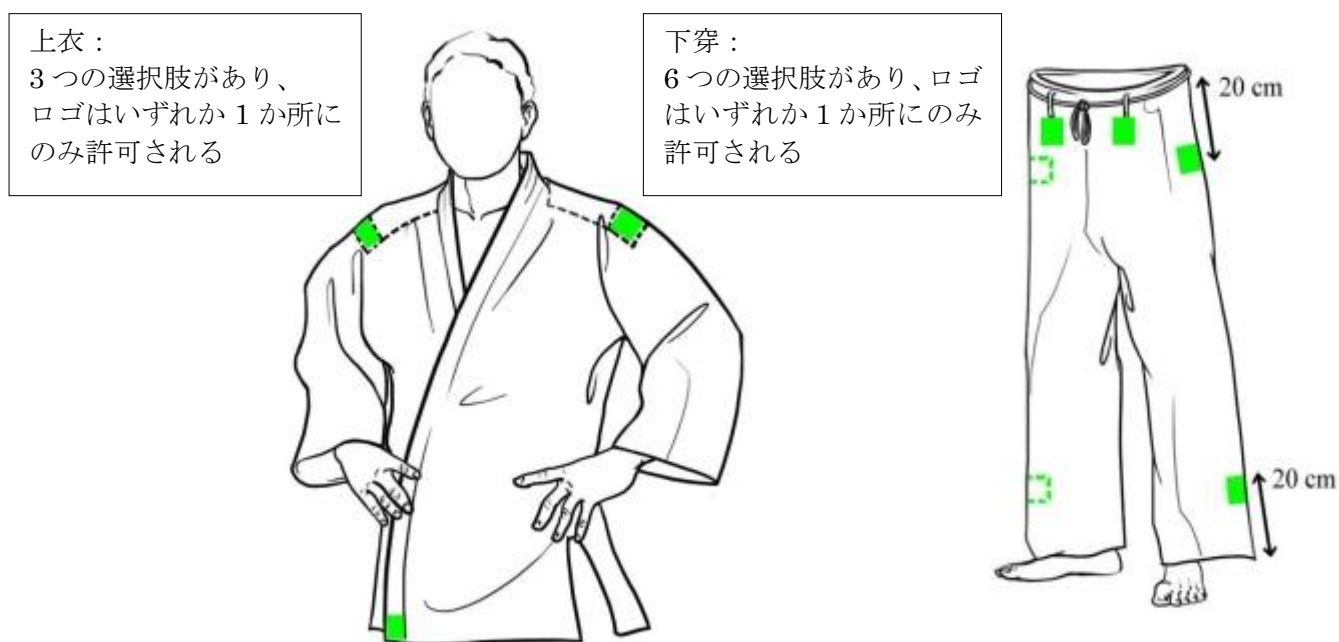
- 上衣の下部左前身ごろで (上衣の前を重ねたとき右前身ごろが下になる)、補強されている箇所に近いところ、もしくは補強されている箇所 (図2参照)
- もしくは、肩につけることが許されている広告スペース (25 cm × 5 cm) の内側下端 (図2参照)

-下穿の外側から見える位置 (図3参照) :

- 下穿の上部前面、もしくは側面 (腰紐から最大で20 cmまでの距離)
- 二本の脚のうち、どちらか一方の下部前面、もしくは側面 (下穿の裾の縁から最大で20 cmまでの距離)

図2

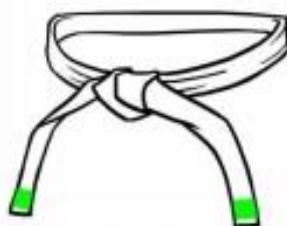
図3



-帯の外側から見える箇所：帯の両端のうち、いずれか一方 (図4参照)。

図4

帯：
2つの選択肢があり、ロゴ
はいずれか一方にのみ許
可される

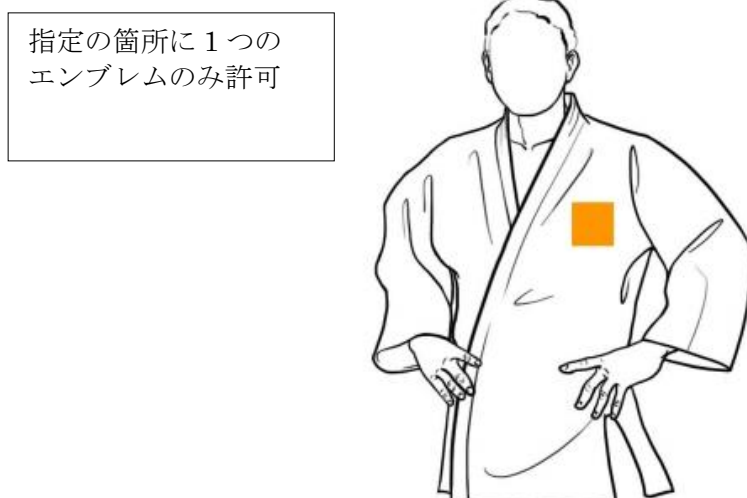


国家のエンブレム (図5 参照) :

国家、国家オリンピック委員会、あるいはIJF加盟の国家連盟の正式な証明となるエンブレム。エンブレムは、商業的なブランドとの関連性があるてはならない。固定位置は、左側の胸の辺り (最大サイズ100cm²)。

エンブレムは、広告スペースの位置につけることも可能である (図6 参照)。

図5



広告 (図6 参照) :

広告は柔道衣の上衣にのみつけることが許される。これについて、必ずIJFの実践的な条項を尊重しなければならない。広告は、IJF、大陸連盟、国家連盟、所属する組織やクラブ以外のスポーツ団体、また、政治的、もしくは宗派などに言及してはならない。タバコ、アルコール、また、ドーピングルールにおいて試合中の禁止薬物にリストアップされているもの、道徳やよい習慣に反したサービス、商品、所有物についてもその宣伝をすることは認めない。

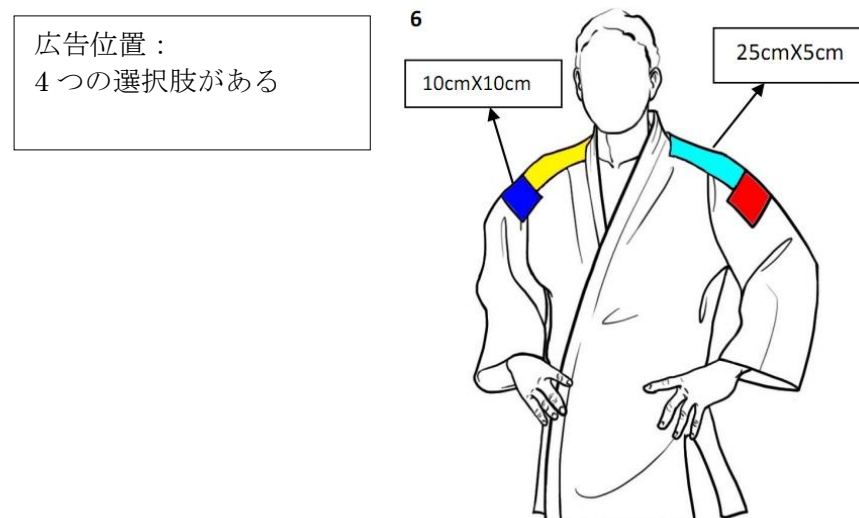
上衣の外から見える位置にある4か所の広告スペースを使うことができる:

-袖、襟から25cmのところに位置する、最大10×10cmの面積のエリア

-肩、25cm×5cmのストライプ状 (縦縞)。このストライプの長さは、襟の下側から袖に掛けて計測されなければならない。

最大で4つの異なる広告をつけることが許可される。ただし、一つのスペースに一つの広告のみが認められる。

図6



その他のマーキング（図7参照）：

選手の名前を以下の位置に入れることが許可される：

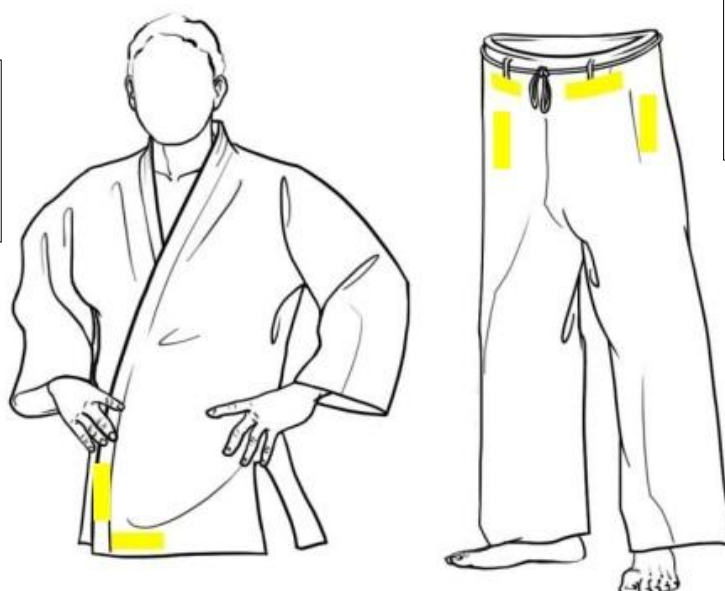
- 上衣の下部
- 下穿の上部
- 帯の両端のうち、どちらか一方

選手の名前を構成する文字のサイズは、最大4cmの高さ、文字列の長さは最大20cm。
その他のマーキングは許されない。

図7

7

上衣：
2つの選択肢があり、いずれか1か所に文字を入れることが可能



下穿：
4つの選択肢があり、いずれか1か所に文字を入れることが可能

帯：
2つの選択肢があり、いずれか1か所に文字を入れることが可能



ゼッケン（図8参照）：

上衣の背中に通常の方法でしっかりと縫い付けて固定される。ゼッケンの上部は襟から3cmの位置に縫い付けてあること。IJFによって開催される大会においては、その大会専用の宣伝広告もつけなければならない（広告は、白と青の柔道衣で異なる）。

図8



色：

上衣と下穿は同一の色（a uniform color）であり、以下の色サンプルと合致していること：

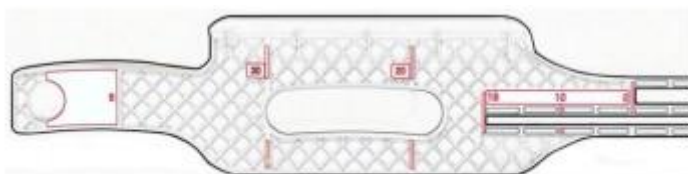
-白: スノーホワイトを参照（雪のような白）

-青: パントンカラー285M（最も色が濃い場合）、286M（最も色が薄い場合）

柔道衣のサイズ（図9参照）：

柔道衣と帯は測定器によってコントロールされる。

図9



上衣（図10参照）：

上衣は、完全に臀部を覆っていなければならない。

ただし、膝から最低でも10cmの距離があること。

袖の長さ（コントロールの際、腕は真っ直ぐ伸ばして拳を握る）：

-測定器全体がスムーズに袖の中にすべり入らなければならない。

-袖口から手首までの距離は、0～5cmであること。

図10

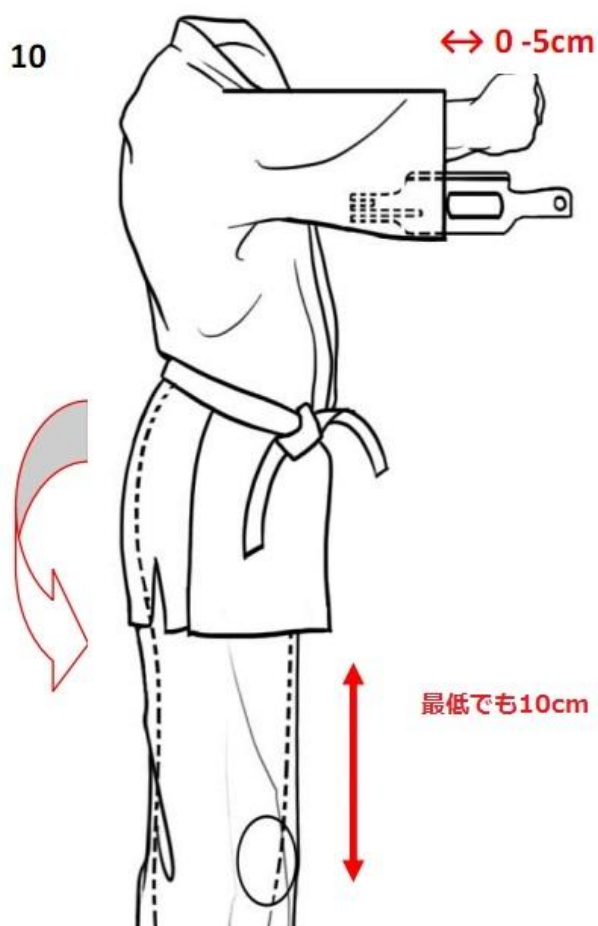
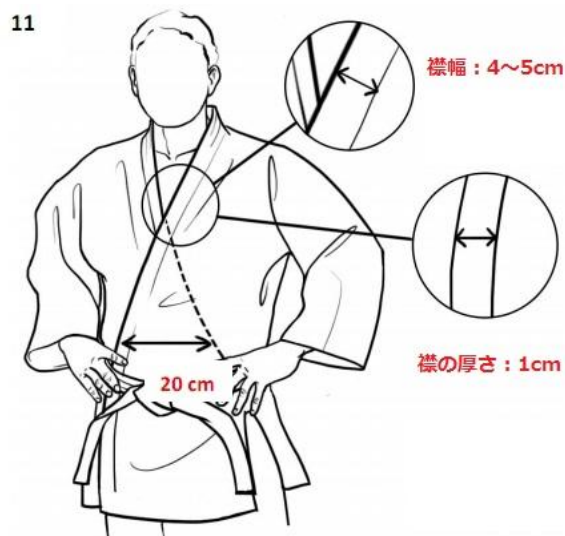


図 1 1 について

- 上衣を前で重ねる箇所は、20 cm以上なければならない。
- 襟の厚さは1 cmかそれ以下であること。
- 襟の幅は4 cm～5 cmであること。

図 1 1

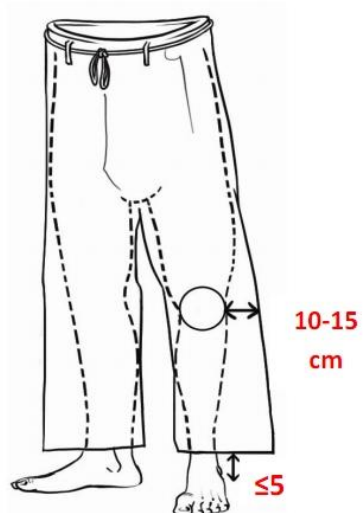


下穿 (図 1 2 参照) :

- 下穿の裾口からくるぶしの外側 (足首) までの距離は5 cmかそれ以下であること。
- 下穿の幅は、膝の位置で、10 cm～15 cmであること。

図 1 2

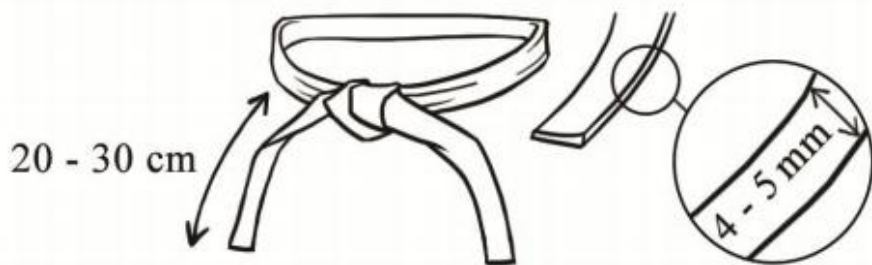
12



帯（図13参照）：

- 帯の厚さは4mm～5mmであること。
- 中央の結び目から帯の端までの長さは、20cm～30cmであること。
- 帯は正しく、且つきつく結ばなければならない。帯は、硬く滑りやすい素材であってはならない。

図13



Tシャツ（女性用）：

- 色は白、半そで、丸首
- 製造業者マークは、最大20cm²のサイズであれば認められる。柔道衣を着用した際に、製造業者マークが見えてはならない。
- 正式な国家、NOC、もしくはIJF加盟連盟のエンブレムを左胸に固定してつけることは認められる。
- いかなる商業的なマーキングもつけてはならない。

以上